

ART企画 OKO

渡辺謙一監督作品上映会 2days

天皇と軍隊

台湾・デジタルデモクラシー

DIRECTOR'S PROFILE



渡辺謙一（わたなべけんいち）

1975年契約助監督として岩波映画製作所入社、1981年毎日放送・文明シリーズ“ザ・ビッグ・デイ”で監督デビュー、映画の発明・リュミエール兄弟、女性史の誕生・高群逸枝など、1984年文化庁在外研修員としてパリに1年留学、1997年パリに移住、フランスや欧州のテレビ向けドキュメンタリーを制作。『桜前線』で2006年グルノーブル国際環境映画祭芸術作品賞受賞。近年は『天皇と軍隊』（2009）、『ヒロシマの黒い太陽』（2011）、『フクシマ後の世界』（2012）、『核の大地—プルトニウム物語』（2015）、『国家主義の誘惑』（2018）など、欧州において遠い存在であるヒロシマやフクシマの共通理解を深める作品制作に取り組んでいる。

日時：2026.11.7（土）～ 11.8（日）（2Days）

会場：FOOD & DRINK Radix（ラディックス）宮古島市平良下里

11月7日（土曜）※2本立て

上映作品「天皇と軍隊」

「台湾デモクラシー」

15時30分開場

16時上映開始⇒20時終了

鼎談 渡辺謙一＋木村真三＋PeeBoo

■入場料 1500円

11月8日（日曜）

上映作品「天皇と軍隊」

17時00分開場

17時30分上映開始⇒20時終了

鼎談 渡辺謙一＋木村真三＋PeeBoo

■入場料 1000円

主催 ART企画 OKO

共催 KAMI productions

一般社団法人 ヒューマニタリアン・サポート

天皇と軍隊

2009年制作作品



© KAMI productions | All rights reserved

天皇制や戦争放棄、靖国問題、東京裁判、自衛隊、日米安保など、日本の戦後史で議論され続ける問題に切り込んだドキュメンタリー。

台湾・デジタルデモクラシー

2022年制作作品



© KAMI productions | All rights reserved

台湾の若い世代による「デジタルデモクラシー」の軌跡を描いたドキュメンタリー。

開催趣旨

ART企画OKOとは、ウクライナ語の「目」。OKOは真実を見る目、疑いの目、未来を見通す目など自由な発想を促す意味があります。また、東洋思想的解釈として、一日一日を大切に生きること。「一」が「日」の中に入ると「目」に進化します。様々なOKOを通して映り込む地方における平和の役割とは何か。それを皆さんと考える機会にしたいと思います。

今回は、仏在住30年のドキュメンタリー映画監督の渡辺謙一氏、プロデューサーのクリスチーナ女史をお招きしての特別上映会を行います。新しい戦前の世となった現在、我々は何に向かって進めば良いのか…その一つのヒントとして本作品を紹介いたします。

第2次世界大戦末期、沖縄本島は本土決戦を前に日本の最後の防衛ラインとして位置づけられた。今回の上映会は、改めて日本がたどってきた近現代の歴史を連合国最高司令官総司令部（GHQ）統治やその後の経緯などを伝える作品を上映します。また、宮古島のすぐ隣ともいべき台湾では、2014年、中国の経済侵略に危機感を抱いた台湾の学生や市民たちが3週間にわたって立法院を占拠し、デジタルツールを駆使して国民に議論を喚起した非暴力市民蜂起「ひまわり運動」。

この運動で民主制度を「透明・開放・参加」の三要素に定義した精神は、その後も生き続けている。2016年の総統・立法委員選挙によって国民党から政権を引き継いだ民進党は、若い世代の政治参加を目標に大臣クラスの官僚ポストを若返らせた。その中でもデジタル担当大臣に起用されたオードリー・タンの存在は、インターネット環境に育った若者たちの政治参加への窓口となる。彼女はデジタル技術を駆使して民主主義をより深めようとしています。その「デジタルデモクラシー」の取り組みを紹介します。

現代アート作家・獨協医科大学准教授（放射線衛生学）
木村真三